「恋文」

概要　貴族に身に覚えのないラブレターがまぎれていた。どうやら人気の小説の中身とそっくりだ。

　　　しかし、それはマスターが冗談で貴族あてに、酒の席で書いたものが紛れただけだった。

　　　商人は知っているが面白そうなので黙っている。マスターは内容が内容だけに黙っていたい。

　　　貴族様が、記憶を飛ばしているのが悪いのだ。

台詞

初期証拠カード「ラブレター」に対して。

マスター「（焦りながら）私は知らないぞ。」と実は知っている感をあっぴるしてください。

学者　「うーん・・・わからないなぁ・・・私にわかるのはこれくらいだよ・・・」

　　　　ほとんど何もわからなかったよ、という感じで証拠カード「女性はギリシア人？」を渡してください。

記者　「うーん・・・どこかで見たような覚えがするなぁ・・・あ、そうだ！思い出した！！」

　　　　悩むようなそぶりの後、ティンときた！という感じで、

証拠カード「女性は小説の登場人物？」を渡してください。

商人　　「これはｗｗｗ私からは言えないよｗｗｗ直接マスターに聴いてくれｗｗｗ」

　　　　笑いながらお願いします。自分知ってるけど教えませんよー、あっぴるでお願いします。

　　　　証拠カード「マスターは知っている」を教えてください。

靴磨き　「・・・なんだい。こりゃあ。ばかばかしい、こういうのは新聞記者にでも聴いてくれ。」

　　　　この事件にはかかわらないぜ、的な雰囲気を出していただけると助かります？

貴族　　「それじゃあよろしく頼んだよ。」

証拠カード「マスターは知っている」に対して。（単体で出された場合。）

マスター「私は知らないと言っているだろう。彼にも困ったものだな」

　　　　マスターはあまり差出人が自分だ、と知られたくないので、若干あせりながらお願いします。

他　　「マスターは知ってるって言われてもなぁ・・・なら、マスターに聞いてくれ。」

証拠カード　「女性はギリシア人」に対して

全員　「ギリシア人に知り合いはいないなぁ・・・」

証拠カード　「マスターは知っている」「女性は小説の登場人物？」の２枚を出された場合。

マスター　「やれやれ。そこまで知ってしまったのなら、話さないわけにはいかないな…

　　　　　まさか貴族さまもすっかり忘れているとは・・・・」

　　　　恥ずかしいな・・・という感じで、真相カード「酒の席の話」を渡してください。

他　　　「うーん・・・心当たりがあるなら直接マスターに当たってみてはどうかね？」

　　　　マスタ－への誘導をお願いします。

「盗まれた宝石を取り戻して」

概要

　家宝の宝石が盗まれてしまった。盗品を問屋が商人に流したものを貴族が購入した。

　しかし、調査の中で鑑定書が偽造であることが分かったので、説明して返してもらおう。

台詞

初期証拠カード「盗まれたエメラルド」に対して。

貴族　　「エメラルド・・・？確かに先日上物を購入したが、盗品なんて冗談はやめてくれ！

　　　　　私の名誉にかかわることだし、第一鑑定書だってついているんだ！！」

　　　　　証拠カード「発見されたエメラルド」を渡してください。

新聞記者「ええ。関係あるかはわかりませんが、盗品のロンダリングが多発していますね。」

　　　　証拠カード「問屋がらみの犯罪」を渡してください。

商人「確かにうちでは、宝石も扱ってはいるけれど、ちゃんと鑑定書付きの品です。

　　　盗品なんて扱っていませんよ。」

　　　多少、狼狽えてるというか、焦りをみせつつ毅然とした態度でお願いします。

靴磨き「エメラルド・・・？生憎、そんな高級品縁なんかさっぱりでね。

　　　　ああ、でも盗まれた宝石の売買ルートとかを新聞記者が調べてたっけな・・・？」

　　　さりげなくのヒントをお願いします。

マスター「エメラルドか・・・。うーん、そういえば貴族様が買ったとか、いってたなぁ・・・・」

学者　「宝石の盗難とロンダリングが最近、起きているみたいだね。新聞記者が調べていたよ。」

証拠カード「発見されたエメラルド」に対して。

商人「・・・！！いや、鑑定書だってあったんだ！！盗品のハズがないだろう！！やめてくれ！！」

　　　あー、こいつ絶対なんか知ってるな、って思わせていただければ幸いです。

学者「おや・・・？これは・・・確信は持てんが・・・もしかしたら偽造ではないかね・・・。

　　　私の目に間違いがないといいのだが・・・・。」

　　　証拠カード「もしかして偽造？」を渡してください

他　「おお、エメラルドは見つかったのかい。よかったじゃないか。」

証拠カード「問屋がらみの犯罪」に対して

商人　「・・・！！ならば偽の鑑定書だという証拠を持ってきたまえ！！」知ってる風にお願いします。

貴族　「なんだね？私の宝石が盗品とでもいいたいのかね？ならば具体的な証拠を出したまえ！！」

他　　「あぁ、そんな話もあったなぁ。私たちには関係ないだろうけれども。」

証拠カード「もしかして偽造？」に対して

商人　「・・・！！信用にもかかわるのに、偽の鑑定書なんてつくるわけがないだろう！！

　　　　いい加減にしてくれ！！」言い逃れる犯人みたいな感じでお願いします。

貴族　「うーん・・いや、しかし・・商人は本物といってたし・・彼が偽物を渡すとは考え難い・・」

他　　「えぇー！！鑑定書は偽造だったのかい？たまげたなぁ。学者様がいうならそうなんだろうけど」

証拠カード「もしかして偽造？」「問屋がらみの犯罪」に関して。

商人　「・・・実は私も、あの鑑定書は偽造だと考えているのですが・・・

　　　　信用にかかわるため、いうに言えず・・・そこまでご存じなら私も腹をくくりますが・・・・」

　　　　証拠カード「鑑定書は偽造」を渡してください。

貴族　「もしかしたら・・・彼も被害者なのかもしれんな・・・・。商人に話を聞いてくれ。

彼が盗品というなら、私も速やかに返却しよう。」

他　　「ふーむ、宝石のロンダリングねぇ・・・大変なんだなぁ・・・で。私に関係あるのかい？」

証拠カード「鑑定書は偽造」に対して

貴族「このエメラルドは盗品だったのか。それは私の名誉にかかわる問題だ！

　　　君、これを持ち主に届けてくれ！！よろしく頼んだぞ！」

　　　真相カード「戻ってきたエメラルド」を渡してください。

「チェンジリング」

概要

　カバンがよく似た別のカバンと入れ替わってしまった！！手がかりは読めない本のタイトル。

　学者様は、それはラテン語だと教えてくれる。新聞記者から人物を探り、貴族のツテでいざ宅配。

初期証拠カード「読めない本」に対して

学者「えーと・・・これはラテン語のようだね・・・黄衣の王（こういのおう）って読むのかな・・？

　　　うーん、オペラのようだが・・生憎うちの大学の人間の所有物というわけではなさそうだな。」

　　　証拠カード「オペラの台本」を渡してください。

他　「うーん・・・何やら名状しがたき文字ですね・・・。ちゃんと学のある人なら別でしょうが、

　　　私には読めそうにもありません。」遠まわしに学者なら読める、と教えてください。

「オペラの台本」に対して

新聞記者「ああ！これは最近この町でもブームになった、オペラのタイトルですよ。脚本家が翻訳したそうで・・・。とすると、この読めない方は・・・誰か舞台関係者のものでしょう。」

　　　　　証拠カード「原版の所有者」を渡してください。

貴族　　「ああ、このオペラなら僕も知っているよ！！引き込まれる舞台だったよ！！

　　　　　監督たちとも会って話したけど・・・実によかったなぁ・・・」

　　　　　貴族は舞台関係者とコネを持っていることを匂わせてください。

商人　　「ああ、このオペラね。新聞でも大々的にとりあげられていたさ。大成功らしい。

　　　　　・・・詳しいことは取材した新聞記者にでもきけばいいんじゃないかな？」

靴磨き　「・・・あっしに見に行く金があるとでも・・・？」

他　　　「いいオペラだったよ。掛け値なしに。・・・詳しくはしらないなぁ・・・」

「原版の所有者に対して」

貴族　「ああ、なるほど！！そういうことなら僕が渡しておくよ！！多分、主演女優の娘だね。

　　　　・・・エキゾチックな指輪がよく似合ってたなぁ。また、会えるのかぁ・・・」

　　　　会えるのがうれしいという風に、真相カード「届けられた鞄」を渡してください。

他　「うーん・・・貴族様は演劇とか大好きだから・・・関係者と接点持ってるだろうなぁ・・・

　　　貴族様に話をしたらどうだい？」

　　　貴族への誘導をお願いします。

「10年目の浮気？」

概要

　酒をマスターのところで楽しむ以外で外出することはそんなにはなかった商人が、最近外出する。

　浮気疑惑の真相は、記念の品を引退した職人に頼み込んでいたからだった。

　~~つまり奥さんは夫を信じ切れず、サプライズを台無しにしてしまうことになる。~~

初期証拠カード「外出する商人」に対して。

商人　「え・・・？僕がどこへ行くかって・・・？酒場に決まってるじゃないか。

　　　　カード仲間もいることだしね。」何かを隠すように、証拠カード「カード仲間」を渡してください。

マスター「商人か・・・。うーん・・最近はこないなぁ。悪いけど彼の行先はしらんね。」

貴族　「えー・・・彼？誠実な人間だよ。浮気はしてないとおもうなぁ・・・」

靴磨き「ああ・・・商人さん？最近よく見るね。浮気？まぁ、場所が場所ですから、おかしくないとは

　　　　思いますけど」証拠カード「路地裏へよく来る」を渡してください。

他　　「うーん・・商人さんとは接点が少ないのでちょっとわかりませんね。」

証拠カード「カード仲間」に対して

マスター　「彼・・・？いやいや、最近はこないよ。なんでそんなウソを・・・あ、もしかして」

　　　　ひらめいた、という感じで証拠カード「結婚十周年の下準備？」を渡してください。

貴族　　「いやいやいやいや。マスターに聞いてくれてもいいけど。彼は最近見てないよ。」

他　　　「ああ、商人のカード仲間といえば貴族様とマスターだけど・・・それで？」

証拠カード「路地裏へよく来る」に対して

学者　「路地裏・・・？あ！引退した指輪職人が住んでたなぁ。ウチの指輪もその人のでね。

　　　　まぁ、関係あるかはわからんが・・・」証拠カード「引退した指輪職人」を渡してください。

商人　「え・・・？路地裏で私を・・？ナンノコトダカワカラナイナー」白々しくお願いします。

貴族・マスター　「彼が路地裏ねぇ・・・。うーん。わかんないなぁ。浮気はない、とおもうんだけど・・」

新聞記者「路地裏？浮気じゃないですか・・？浮気は路地裏と相場が決まっています。」

証拠カード「結婚十年目の下準備？」に対して

商人　「・・・・！！さぁ、一体何の事だろ・・？」ああ、これだな、と匂わせてください。

他　　「結婚十年目のプレゼントねぇ・・・。やっぱ無難に・・・指輪とか・・？」

証拠カード「引退した指輪職人」に対して

商人　「ああ、惜しい人が引退してしまったねぇ・・うちの結婚指輪も作ってもらったんだけども・・・。」

他　　「ああ、聞いたことがあるなぁ・・・。やっぱ妻への記念品とかは指輪がいいかねぇ？」

証拠カード「結婚十年目の下準備？」「引退した指輪職人」に対して

商人　「妻を驚かせたいので、内緒にしては欲しいのですが・・・・」

　　　　真相カード「もう一度だけお願い」を渡してください。

他　　「ほう・・・。そんな人がいるのか・・。でも、引退してしまったなら説得は厳しいよなぁ。」

「エーシーズ・ハイ」

概要

　あの日、助けてくれたのは、貴族だったのさ。しかし、彼は健康状態から飛行機を禁止されている。

　姿を見られずにひっそりと飛ぶことを強いられてるんだッ！！（集中線）

台詞

初期証拠カード「キズモノ飛行機」に対して

新聞記者　「あれ？それってもしかして貴族様のではないですか？まえに飛行機関連の取材で、

　　　　　　見せてもらったことがあるのですが。」証拠カード「貴族説」を渡してください。

学者　　　「うーん・・飛行機ねぇ。庶民が簡単に手に入れられるものじゃあないからなぁ・・・

　　　　　　持ってるとしたら貴族様かねぇ。」

貴族　　　「飛行機なんて。少なからず、軍からのおさがりさ。そりゃ傷くらいあるだろうよ。

　　　　　　私のではないよ。私は第一、飛行機に乗るのをとめられているんだし。」

他　　　　「うーん・・飛行機と言えば貴族様が好きでしたね。たしかレースで優勝して取材を

　　　　　　受けたこともあるとかで・・・・」

証拠カード　「貴族説」に対して

貴族　　「私じゃないよ。妻にも医者にも止められているのに！」

　　　　　多少オーバーにリアクションしていただき、怪しさを出していただければ嬉しいです。

靴磨き　「あぁ、そういえば。コソコソと路地をあるいてたっけ。どうせ逢引きだろうと、気にも留めてなかったが。」　証拠カード　「目撃証言」を渡してください。

マスター　「たしかに貴族様は飛行機好きですが・・。なんでも健康状態から医者と奥さんに止められているとか・・・」証拠カード　「健康状態」を渡してください。

他　　　「あぁ、なーんだ。貴族様なのか。・・・あれ？でもなんか貴族様には事情があったような・・？

　　　　　マスターなら知っているかな？」

証拠カード　「目撃証言」に対して

貴族　　「・・・・！！ナンノコトダカワカラナイナー。ひっそりと行く理由がないしー」

学者　　「うん？路地裏を抜けたところには飛行場があるね。そこに向かってたのかな？」

他　　　「うーん。それはすっごく怪しいですね。なんでひっそりと歩いてたんでしょう？」

証拠カード　「健康状態」に対して

貴族　「そうなんだよ・・・特に妻が厳しくて・・飛行機に乗せてくれないんだよ・・・」

他　　「貴族様は大変ですね。あんなに飛行機が好きなのに、飛行機に乗れないだなんて」

証拠カード　「目撃証言」「健康状態」に対して

貴族　「うーん・・・その通りだよ・・妻には内緒にしてもらえないだろうか・・・」

　　　　しぶしぶ、といった感じで、真相カード「貴族様は静かに飛んでいたい」を渡してください。

他　　「うーん・・じゃあ貴族様は奥さんにばれないように飛行機に乗ろうとしたのかな・・？

　　　　まぁ、本人に聞いてみるのが一番だと思いますよ。」

「りゅうたま」

概要

　学者先生から、子供たちが子供教室に来ないと言われる。その真相は漫画をよんでいたのだった！

初期証拠カード「子供が来ない」に対して

靴磨き　「そういえば最近、子供たちが「竜の玉」がどうとか話しているな。

　　　　　なんのことだかはわからんが、流行っているものではあるらしい。」

　　　　　証拠カード　「竜の玉」を渡してください。

商人・マスター「うちの子供は、ちゃんと子供教室にいっているというのだが・・・」

他　　「学者先生の教室ねえ・・・たしか路地を少し行ったところにあったなぁ・・・」

　　　　　\*貴族は多少動揺した後に、台詞を出してください。

証拠カード「竜の玉」に対して

新聞記者　「それは・・東方から伝わってる「MANGA」と呼ばれる絵巻物の一つのハズだ・・・。

　　　　　　たしか貴族様が熱心な収集家だったような・・・」

　　　　　　証拠カード「貴族の所有物」を渡してください。

貴族　　　「な、なんのことだろうか・・・？」明らかに動揺してください。

他　　　　「竜の玉・・・？なんのことだろうかはわからないけど・・・流行ものなら

　　　　　　新聞記者に聞くのが手っ取り早いんじゃないか？」

証拠カード　「貴族の所有物」に対して

貴族　　「あぁ・・・確かに私は持っているが・・・。それがどうかしたか・・・？」

他　　　「へぇ・・・貴族様は趣味が本当に広いんだなぁ…。

　　　　　あれ？でもなんで子供たちの間で流行っているのだろうか・・・？」

証拠カード　「子供が来ない」「貴族の所有物」に対して

貴族　　　「・・・ああ、その通りさ。子供は私の家でMANGAを読んでいるよ。あんな小さいのに、

　　　　　　面白くもない勉強なんてかわいそうじゃないか・・・・。息抜きをさせたかったんだ・・。

　　　　　　学者の方には私の方から誤っておくよ・・・」

　　　　　　　真相カード　「貴族の家で」を渡してください。

他　　　　「うーん・・・われわれには推測するしかできないからなぁ・・・

　　　　　　直接貴族様に聞くのがいいのではないだろうか？」

「くさきものども」

概要

　商店街の裏路地で、謎の集団が集まっていた！それらが去った後残されたのは名状しがたき異臭のみ！

　貴族様からの依頼を受けて、マスターが納豆を使った新メニュー作ってたなんてとても言えない！！

　~~それにしても得体のしれない物作って、浮浪者に味見させるとかよく考えたらマスターひどくないか？~~

初期証拠カード　「謎の集団」に対して

新聞記者　「あぁ・・最近噂になってますよ。なんでも腐ってしまった豆を食べる集団がいるとか・・・。

　　　　　　相当臭いらしいですよ？」証拠カード　「腐った豆」を渡してください。

靴磨き　　「見た！数日前から現れて、奇妙なモノを配って、いくつかの質問をしていくらしい。

　　　　　　・・・俺は匂いがダメで近寄らなかったけどさ。覆面の男だったよ。」

　　　　　　証拠カード「黒覆面の男」を渡してください。

他　　　　「うーん・・こころあたりはないが・・流行には新聞記者が、裏路地には靴磨きが詳しいよ」

証拠カード「腐った豆」に対して

貴族　「ああ！それは納豆とかいう料理で私も食べたいと思ってたんだ！！誰かに軽く頼んだのだが・・・

　　　　だれに言ったっけなぁ・・？」証拠カード「料理依頼」を渡してください。

マスター「あ、それは多分納豆って料理ですね。東方では一般的な物らしいです。貴族様が言ってましたが。」

他　　「腐った豆・・・？そんなものが食べれるのか？生憎私は料理しないからなぁ・・」

証拠カード「黒覆面の男」に対して

商人　「そういえば・・・酒場からそんな身なりの男が出てきていたことがなんどかあったな・・・？

　　　　マスターの知人だろうか？」証拠カード「酒場から出現」を渡してください。

マスター「黒覆面の男・・？私のお客様にはいませんね。他の客が怖がりますし。」

他　　「うーん・・怖いねぇ。なんだってそんなものを付けているのだろうか・・？」

証拠カード「料理依頼」に対して

マスター「ああ。はい。前に貴族様がウチで飲まれたときに、食べてみたいなぁ。とおっしゃっていたので。

　　　　しかし、とはいえ・・・私もあの匂いには・・・とてもとても。」

他　　「なんだって、私に貴族様が料理を頼むのさ。そういうのは料理ができる人に頼むだろうよ。」

証拠カード　「酒場から出現」に対して

マスター「・・・え！？・・・いや、なんでもないんです！！」

　　　　解りやすく狼狽えていただけると嬉しいです。

他　　「うーん・・・そんな変な客がいるのか・・？まさかなぁ・・・」

証拠カード　「料理依頼」「酒場から出現」に対して

マスター「ええ。多分推測どおりにそれは私です。製法を研究中で味見をお願いしてたんですよ。」

　　　　真相カード「覆面のわけ」を渡してください。

他　　「うーん・・・マスターに聞いてみるのがいんじゃないか？」

「行方不明の看板娘」

概要

消えた看板娘。実は貴族からプロポーズされたのだが・・・彼女には恋人がいた。

これを機に人生をやりなおしたい、と考えた彼女は駆け落ちをしたのだった！！

初期証拠カード「酒場のローラ」に対して

商人「うん？一昨日、いろいろと旅道具を買い込んでいたぞ。旅行にでも行くんじゃないか？」

　　　証拠カード「旅支度」を渡してください。

靴磨き「昨日、美容院に入っていくのをみたぞ・・たしか赤毛に染めていたな・・・

　　　　せっかく綺麗な金髪をしていたのに」証拠カード「赤毛のローラ」を渡してください。

新聞記者「ああ、ローラと言えば、なかなかの器量よしだよ。貴族様からプロポーズを受けたって、

　　　　　もっぱらの噂だよ。」証拠カード「貴族のプロポーズ？」を渡してください。

貴族「ローラだって・・・！！いや、私は何も知らんぞ・・！！」

学者「うーん・・なじみ深い名前ではあるが・・私は酒場にはいかないからなぁ・・・」

「貴族のプロポーズ」に対して

貴族　「ああ・・・フラれたよ。付き合ってる彼氏がいるらしくてなぁ・・・誰かは知らんが。

　　　　そして彼女はいなくなってるだろ・・？私としては権力使って云々という気はないのに・・・残念だ」

他　　「ああ・・・ごく最近の話だよ。2日くらい返事を伸ばして、結局貴族様はフラれたらしい。

　　　　まぁ、貴族様からプロポーズなんてされたら町娘はビビっちまうよなぁ・・・

　　　　OKするならともかく、断るとなると、相手は権力者。ちびるね。」

「赤毛のローラ」に対して

新聞記者　「ああ・・。そういえば関係あるかは知らないが、学者先生の助手のジャックが、

　　　　　　赤毛の女性と馬車に乗ってるのを見たな」証拠カード「ジャックと馬車」を渡してください。

他　　　　「ローラが赤毛に？いや、知らないけど。貴族様のプロポーズとなんか関係があるのかな？」

「旅支度」に対して

靴磨き「うーん・・・関係あるかはわからんが、学者先生のとこのジャックも旅支度をしていたな。」

マスター「ええ？ローラが旅支度をしていたって？知らなかった・・・」

貴族　「・・・こう思いたくはないが、私が原因なんだろうね・・・やっぱり。」

学者　「ローラ・・・彼女の旅支度についてどうして私が知ってるのかね？」

新聞記者「ああ・・ローラさんから、いくつかの土地について聞かれましね。たしか」

証拠カード「ジャックと馬車」に関して

学者「ジャックは、先日をもって助手をやめたが・・あいにくと彼のプライベートには、

　　　私は興味ないのでね。」何かを隠している様子でお願いします。

貴族　「ジャック・・・？生憎と私には縁がないが・・・？」

新聞記者「ああ・・・ジャックさんといえば、学者先生の助手でローラさんの彼氏ですよ。

　　　　　たぶんその女性はローラさんで間違いないと思いますよ。」

　　　　　「ジャックとローラ」を渡してください。

他　　　「ああ、ジャックは学者先生にはいろいろお世話になっている、とよく言っていたな。」

証拠カード「ジャックとローラ」に対して

学者　基本的に「ジャックと馬車」と同様に対応してください

貴族　「・・・なるほど・・・ローラの彼氏はジャックというのか。知ったところで、もう私には関係ないが・・・」

他　　「へえ。ローラの彼氏はジャックだったのか。そいつはしらなかった。」

「旅支度」「貴族のプロポーズ」「ジャックとローラ」に対して

学者「そこまで調べがついているのか・・・・。なら話そうか・・・。ローラとジャックはこの町を出て行ったよ。くれぐれも貴族様には内緒にしてくれ・・」

　　　真相カード「駆け落ち」を渡してください。

貴族　「なるほど・・・私は本当にローラにはすまないことをしたな・・・

　　　　学者先生に聞いてくるのがいいだろう・・・さすがに教えてくれるだろうよ…」

他　　「ああ・・・これは。駆け落ちかな・・・なんにせよ、学者先生に聞くのがいいだろう。」